# 会 議 録

| | |
|---|---|
| 会議の名称 | 令和８年度結城市総合教育会議 |
| 開催日時 | 令和８年１０月２６日　午後１時３０分 |
| 開催場所 | 結城市役所４階　大会議室１ |
| 出席者 | 構成員<br>結城市長 小林　栄<br>教育長 黒田光浩、教育長職務代理者 岩﨑　勤<br>教育委員：中村義明、赤木信之、田中昌希<br><br>構成員以外の出席者<br>・総務部<br>総務部長、次長兼総務課長、総務課長補佐兼総務係長、総務課主幹<br>・教育委員会<br>教育部長、学校教育課長、学校教育課長補佐兼施設係長<br>学校教育課学務係長、学校教育課教育政策推進係長、<br>参事兼教育支援課長、生涯学習課長、スポーツ振興課長 |
| 議題 | 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引の改訂について |
| 公開･非公開の別 | 公　開 |
| 傍聴人の数 | ０人 |
| 審議内容 | 別紙のとおり |
| 問合せ先（事務局） | 総務部総務課総務係<br>ＴＥＬ　０２９６－３４－０４０２<br>ＦＡＸ　０２９６－５４－７００９<br>ｅ－ｍａｉｌ　soumu@city.yuki.lg.jp |
| その他 | |

【別紙】

# 令和８年度結城市総合教育会議

○日　　時　　令和８年１０月２６日　午後１時３０分から

○場　　所　　結城市役所　大会議室１

○出 席 者

（会議の構成員）

小林　栄　市長
黒田光浩　教育長
岩﨑　勤　教育長職務代理者
中村義明　教育委員
赤木信之　教育委員
田中昌希　教育委員

（構成員以外の出席者）

・総務部

総務部長、次長兼総務課長、総務課長補佐兼総務係長、総務課主幹

・教育委員会

教育部長、学校教育課長、学校教育課長補佐兼施設係長
学校教育課学務係長、学校教育課教育政策推進係長
参事兼教育支援課長、生涯学習課長、スポーツ振興課長

（説明者）

学校教育課長

○議　　事（協議・調整事項）

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引の改訂について

**１　開　会**（司会：総務課長補佐兼総務係長）

・ただ今から「令和８年度結城市総合教育会議」を開会いたします。

**２　市長挨拶**（小林　栄市長（以下「市長」））

【挨拶　省略】

**３　教育長挨拶**（黒田光浩教育長（以下「教育長」））

【挨拶　省略】

**４　議　事**（議長：市長）

**・公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引の改訂について**

（説明者：学校教育課長）

○公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引のうち、改訂があった箇所について、資料に基づき説明。

○結城市学校適正配置等推進体制（案）について、資料に基づき説明。

・資料１：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成２７年策定）の改訂

・資料２：結城市学校適正配置等推進体制（案）

（主な内容）

＜公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引＞

・今回の改訂は、全国的な児童・生徒数減少の傾向が続いていることによる統廃合により、小・中学校数が減少している背景を受けた改訂であり、次の３つの視点を追加している。

【広域化】

・各市町村が隣接する市町村一体で適正規模・適正配置を検討する。複数の市町村で学校の設置を検討することや、１人１台のタブレット端末等を活用して、小規模校であっても学校間を連携することにより広域化を図る。

・結城市では、タブレット端末等を活用し、中学校での合同生徒会や、海外の高校とインターネット中継での授業を実施している。

・茨城県では、統合型の校務支援システムの導入準備が進められており、県内の教職員間の交流が活発になることが期待されている。

【総合化】

・地域の未来を考える視点で、適正規模・適正配置を検討すること。市長部局と連携したスクールバス等の通学手段の確保、まちづくりと一体的に検討する考え方である。

・結城市では、市内巡回バスが運行されており、これを拡大する形で一部スクールバスとして活用できないかといった検討が該当する。

・学校施設を複合化してまちづくりの核とするという考え方である。結城市では、南中学校区新設小学校の計画において、メディアセンターやランチルームを設け、地域に開放することで生涯学習、地域交流の場として活用する計画で検討

した経緯がある。

【現代化】

・ＩＣＴ等の学校教育の変化を踏まえて適正規模・適正配置を検討すること。学習指導要領の改訂を踏まえた教育、GIGA スクール構想を前提とした学びなどである。

・次期学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」盛り込まれることに伴い、１人１台タブレット端末の活用を今以上に推進していくことを検討している。

・結城市では、小学校の総合的な学習の時間において、プログラミング学習を実施している。成果として、県のプログラミングコンテストで受賞した児童がいる。

・教職員の働き方改革、県の統合型校務システムを活用することで時間を有効活用し、子どもと向き合う時間を増やしていく。

＜結城市学校適正配置等推進体制（案）＞

・令和９年度から新たに結城市の学校適正配置について検討する組織を設置する。

・３中学校区の学校再編委員会を同時に立ち上げ、総合的に基本方針・基本計画等を検討していく。

・児童生徒数の平準化や校舎の老朽化問題等の課題を考慮し検討を進める。

○教育長

・２０１５年の適正配置検討が出された頃と中心軸はずれていないと感じた。柔軟な方向にいくということを再認識した。学校がなくなると地域が衰退するという意見があるが、その言葉は乱暴なことだと思う。教育と地域は分けるべきであり、２つを結びつけると、子どもたちにとって最良の教育はできない。

○岩﨑勤教育長職務代理者

・３中学校区の再編委員会を立ち上げるということについて、結城市内全体の地域の方が目線を向けることになり良いと思う。

・既存の施設の有効活用を検討するということは良いと思う。

・中学校の施設も老朽化しているので、３中学校を建て替えることに伴って、小学校を統合するという考え方が良いのではないかと考えている。トータルの予算が削減できるのではないか。

○市長

・現在の状態が続き、南北で１校程度にならざるを得ない時期が来ることを踏まえると、まちづくりと一体として考え、将来を担う子どもたちの教育環境をどうつくるのかという視点が必要だと考えている。市民にも未来を考えて欲しい。３中学校区の再編委員会立ち上げはそのきっかけになると良い。

○中村義明教育委員

・最終的なビジョンの具体化には予算が絡む。理想だけでは事業の具現化が難しいのではないか。市全体（議会）で論議することが必要だと考える。

・南中学校区の再編について、これまで長く論議して来た。３中学校区の再編委員会設置の案は、これまでの論議が白紙になるように感じられて残念である。
・発達障害を持つ子の認定数が多いという情報もあり、学校教育だけでなく福祉行政も巻き込んで論議しなくてはならないのではないか。機構改革も必要ではないか。南中学校区新設校に計画されていたメディアセンターに大いに期待していた。

○市長
・これまでの結果を受け止めつつ、本市の教育の方向性について、トータルで考えて行きたい。教育に力を入れる街だという点を打ち出しながら結城らしいまちづくりを進めていきたい。

○赤木信之教育委員
・将来を見据えることも大事だが、現在の結城市の課題は、南中学校区の統廃合だと考える。人間関係が希薄化する中で、多くの人数の中で切磋琢磨できるような場を設けることにより、社会力を強化することが何よりも大切だと感じている。

○田中昌希教育委員
・適正配置・適性規模というのは、子どもにとって居心地の良い場所であるためのものだと考える。
・子ども時代の体験が大人になってからの社会的健康に深く影響しているという研究結果がある。ネグレクトなどの逆境的な体験を経験した子どもでも、支えてくれる学校や地域とのつながり（ポジティブ経験）が、逆境的な環境体験を癒す効果があるそう。学校は、こうした環境を用意する役割が求められているのではないか。それを実現するために「適正配置・適正規模」基準があると考える。

○赤木信之教育委員
・民生委員が横断的な働きをしていると思う。ただし、今後は行政的な組織づくりも並行して進めても良いかと思う。

○中村義明教育委員
・市内の小規模小学校の運動会と市外の児童の多い小学校の運動会を参観し比較したが、子どもたちの自立支援を考えたときには、大人数の中で切磋琢磨させた方が強い子どもに育つのではないか。

○市長
・拡大の時代から集約の時代に変わって来た。南中学校区に統合校ができるとしても最短でも４～５年かかる。この間の教育も今いる子どもたちのために充実させなくてはならない。

○教育長
・少子化は、教育を縮小する理由にはならない。小規模特認校でも良いではないかという意見があるが、経過を知らないのではないかと思う。問題を解消するために、教育委員会はいろいろな策をやってきている。現場を知らないのに「字面に踊らされる」のは避けるべきである。我々は小規模でもぶれずにしっかりとした教育をやっていく。

○岩﨑勤教育長職務代理者
・新設校の建設事業は大きい予算であるが、市内の建設業界で施工するような仕組

みとなり、地域のために使われるということであれば、予算の見え方が変わってくる。業界が活気づけば統合も違った意味でも盛り上がると思う。

○市長

・市内で施工できる業者がいれば、当然市内業者を優先していく。今後の検討を進める際にも考慮していきたい。

・教育の話より先にお金の問題になってしまうが、お金の問題だけでなく、教育の在り方をまずは論議してくれないことを残念に感じている。

・保育所の老朽化や高校再編の可能性もあり、総合的に考えていかなければならないと考えている。

○岩﨑勤教育長職務代理者

・結城中学校区、東中学校区の再編委員会では、地域から新たな意見が出てくるのではないかと考えるがいかがか。

○教育部長

・課題は出てくると考えるが、今のところ、課題自体は伺っていない。逆にそのような課題を吸い上げるための会議だと考えている。行政主導で進めると反対意見が多くなる可能性もあるため、地域から問題提起をしていただきたい。

○赤木信之教育委員

・公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引では、「柔軟に」という言葉があるが、適正配置推進体制（案）においてはどういう意味なのか。委員の選出を柔軟に考えてよいのか、内容を柔軟に考えてよいのか。

○学校教育課長

・委員の候補者は案として示すものの、必要に応じて、議論の内容、検討内容に応じて、専門家などを入れることも想定している。議論の内容についても、柔軟にいろいろな方向性を出して検討していただくことを想定している。

○市長

・現代の社会問題は、核家族化によって生じてきているのではないかと考えている。複合的なものを作って、高齢者から現役世代まで無理なく交流することができる仕組みが必要だと考える。

○田中昌希教育委員

・いろいろな方に関わってもらえるように、再編委員会にオープン参加はできないのか。自分の意見を発言したり、論議してもらえたりするような仕組みがあると良い。

○学校教育課長

・オブザーバーとして参加してもらうことはできる。意見を出してもらうとなると集約が困難であると考える。

○市長

・意見は集約せずとも良いので、オブザーバー参加ができるような仕組みを作って行きたい。ただし、実際に計画を作る段階では、専門家によってたたき台を作成する必要があると考える。

○中村義明教育委員

・再編委員会は、しっかりと意見を持っている人が委員になってもらえるように組織した方が良い。
・これまで作成した南中学校区小学校の設計図は今後も活かせるのか。

〇教育部長
・基本的には同じ設計内容での補助申請は難しい。白紙ではないが、再申請の際は見直しが必要である。

**５　閉　会**

・以上をもちまして、令和８年度結城市総合教育会議を閉会いたします。
本日は大変ありがとうございました。

午後２時４５分　終了